大礼委員会（第11回）議事概要

1 日時：令和2年10月21日（水）15：00～15：14

2 場所：第一会議室

3 出席者：

（委員長）宮内庁長官

（副委員長）宮内庁次長，侍従長，皇嗣職大夫，式部官長

（委員）審議官，宮務主管，皇室経済主管，侍従次長，上皇侍従次長，
皇嗣職宮務官長，式部副長（儀式），式部副長（外事），
書陵部長，管理部長，京都事務所長

（参事）調査員

（設置内規第2条第2項に基づく出席者）掌典長

4 議事概要

（1）第11回天皇陛下の御退位及び皇太子殿下の御即位に伴う式典委員会配付資料の説明

○ 資料1「第11回天皇陛下の御退位及び皇太子殿下の御即位に伴う式典委員会配付資料」を審議官から説明。説明の主な内容は次のとおり。

・ 10月8日に「天皇陛下の御退位及び皇太子殿下の御即位に伴う式典委員会」の第11回の会議が開催された。

・ 「立皇嗣の礼に係る検討経緯について」，「立皇嗣の礼の挙行についての考え方」，「立皇嗣の礼の挙行日について（案）」について，事務局から説明があった。

立皇嗣の礼の挙行についての考え方が示され，新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から，「立皇嗣宣明の儀」については縮減された参列者，約50人により行う。「宮中饗宴の儀」については行わない。「立皇嗣宣明の儀」及び「朝見

の儀」については、第10回式典委員会では承された細目案のとおり行う。これらを前提として、立皇嗣の礼の挙行日を決定する必要がある。との提案であった。

- ・ この提案を踏まえ、委員間で議論が行われ、ある委員から、新型コロナウイルス感染症については、感染状況に十分注意を払いつつ、感染拡大防止と社会経済活動の両立に努めていくことが重要である。間もなく御即位から1年半、また、即位礼正殿の儀等の諸儀式が挙行されてから1年が経とうとしていることを考えると、感染防止に万全を期した上で、この秋を目途に挙行すべきであるという趣旨の発言があった。また、別の委員から、秋から冬に入ってくると、新型コロナウイルス感染症に加え、季節性インフルエンザも流行してくるのが通常であるという趣旨の発言があった。
- ・ 儀式の中味については、ある委員から、宮中饗宴の儀については、多数の参列者が飲食を行う儀式であり、参列者同士が至近距離で会話を交わすことになる。新型コロナウイルス感染症対策の観点から、宮中饗宴の儀は挙行すべきではない。立皇嗣宣明の儀についても、同様の観点から、参列者数を縮減して行うことが適切であるという趣旨の発言があった。
- ・ こうした意見の後に、宮内庁長官から、立皇嗣宣明の儀の参列者数を縮減するとともに、宮中饗宴の儀を行わないこととすることについて、宮内庁としても異存はない。日程については、この秋の皇室における行事予定等を勘案すると、宮内庁としては、11月8日の日曜日が望ましいと考えているという趣旨の発言があった。
- ・ 委員の更なる発言を経て、立皇嗣の礼として立皇嗣宣明の儀及び朝見の儀を令和2年11月8日に行うことが決定され、儀式の中味についても、事務局提案のとおり了承された。
11月8日に行うことについては、式典委員会開催翌日の10月9日に閣議決定がなされた。

(2) 立皇嗣の礼関係行事等（予定）について

- 資料2「立皇嗣の礼関係行事等（予定）について（案）」を審議官から説明。主な内容は以下のとおり。
 - ・ 資料の名称欄に二重丸を付している、国の儀式として行われる「立皇嗣宣明の儀」「朝見の儀」については、11月8日に行うことが閣議で決定されている。
 - ・ 神宮神武天皇山陵昭和天皇山陵に勅使発遣の儀については11月5日、神宮に奉幣の儀から朝見の儀までは11月8日とし、一般参賀（記帳）については、記帳の際に高齢者を始めとする多数の方が近接して並ばれること、それから、記帳の際に記帳用紙や筆記用具に多数の方が触れることなど、特殊な状況であることを踏まえ、行わないこととしたい。

神宮御参拝、神武天皇山陵御参拝、昭和天皇山陵御参拝については、別途決定としたい。
- 皇嗣職大夫から、神宮、神武天皇山陵、昭和天皇山陵への御参拝について発言。主な内容は以下のとおり。
 - ・ 神宮、神武天皇山陵、昭和天皇山陵御参拝については、お成りの際に、駅頭あるいは沿道に多くの奉迎者の参集が予想されることから、COVID-19の感染を拡大するような事態を避けるために、当分の間はお控えいただくこととし、お成りになる時期については、今後のCOVID-19の状況を見ながら、検討してまいりたい。

なお、この判断に当たり、複数の感染症の専門家の意見を参考にした。
- 「立皇嗣の礼関係行事等（予定）について」について、委員会として了承することとされた。

(3) 立皇嗣の礼関係行事等の式次第について

○ 資料3「立皇嗣の礼関係行事等の式次第(案)」のうち神宮神武天皇山陵昭和天皇山陵に勅使発遣の儀から賢所皇霊殿神殿に謁するの儀までについて、式部副長(儀式)から説明。主な内容は以下のとおり。

- ・ 今回の諸儀式は、平成3年に行われた立太子の礼を基にして、これまでの大礼諸儀式の次第と表現の統一をはかり立案した。
- ・ 平成3年の立太子の礼との違いは2つある。1つは、大礼の一環として位置づけられていることから、大礼委員の着床を勅使発遣の儀、親告の儀、謁するの儀に設定している。
なお、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、勅使発遣の儀については、大礼委員の着床のスペースが限られていることから、一部委員の着床とする予定である。
もう1つは、謁するの儀において、平成時は皇太子殿下は単身でいらっしゃったことからお一方の拝礼であったが、今回は皇嗣同妃両殿下は殿上で、御同列での拝礼である。

○ 資料3「立皇嗣の礼関係行事等の式次第(案)」のうち皇嗣に壺切御剣親授について、侍従次長から説明。主な内容は以下のとおり。

- ・ 立皇嗣宣明の儀が行われたすぐ後に、宮殿 鳳凰の間において行われる。式次第は資料3に記載のとおり、天皇陛下がお出ましになり、次に皇嗣殿下が御前に参進される。その後天皇陛下のお言葉があり、続いて壺切御剣を皇嗣殿下にお授けになるという流れである。

○ 「立皇嗣の礼関係行事等の式次第」について、委員会として了承することとされた。

(4) 委員長挨拶

- 半年余の延期となったが、いよいよ皇位継承に伴う一連の儀式・行事等を締めくくる、立皇嗣の礼関係行事等を執り行う。
- 国事行為を含め、一連の儀式・行事等がつつがなく執り行われるよう、感染防止に万全を期してほしい。
- 体調管理に留意しつつ、職務に励んでいただきたい。

(5) 次回日程

- 次回会議については未定であり、決定したら調整の上、別途連絡することとされた。

以 上